

國貞
畫



為永作

六編下

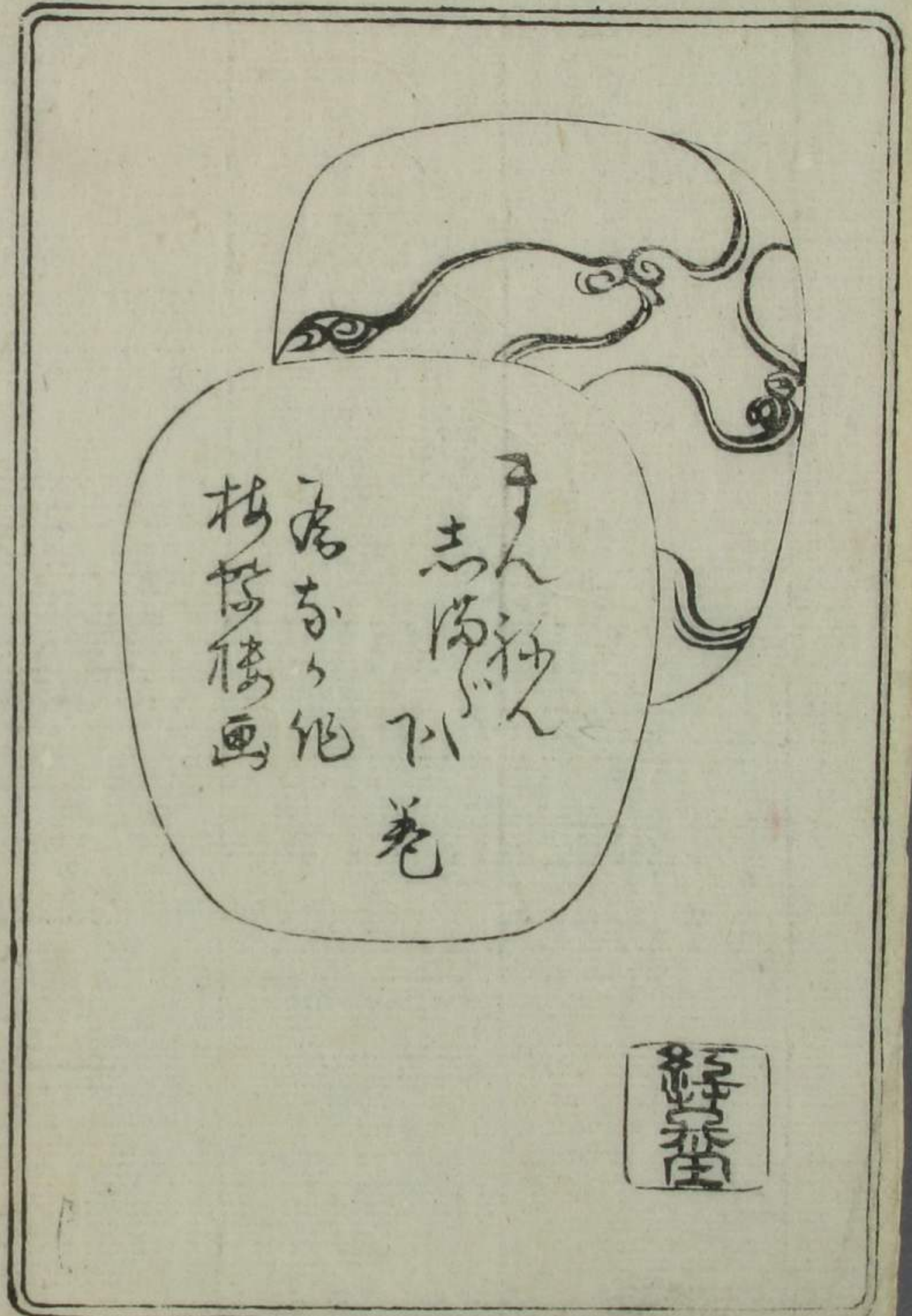


厚化糖

萬年
島田

六編上

3017
6



一 梅

先春陽の春の色香梅の枝の具候神を
浴人の心や春よるりぬんすハ梅の花盛る只雲との
えり野のふれの花よあけはる一と那謡曲は諷
えりも實宜るれや春來も六墮落とつ例の持病の
花鳥の音よ引出さんて机よ對えど何とやら上の空
の詠め勝るるあつるよ書房の使來りて急ぎ書くと
促さるる今ハちやくき消よちりみゆ失う子る筆の
運びも乱拍子先端がりの席文くら面も冠らふて
野面て誌を

明治第三庚午孟春

爲永春水る



有賣新助

八幡宮

吉志



辰巳の阿百

湯兵衛の子

鶴川多

奉納八幡宮



吉巻

本町四丁目

吉巻の
 身は久しよりの
 衣を着てやうら
 せのこおつたの
 をいふ

吉巻はあつろ合ふ
 つけくちをいふ
 衣を着てやうら
 せのこおつたの
 をいふ

おおひ
 ちの
 まは
 ちの
 まは



吉巻

吉巻

まつちあひ
 ちの
 まは

おおひ
 ちの
 まは





つれづれを ついでに 子も 多かろうと 戯れけり
 いかん せいで じやうぶ ちやうぶ じやうぶ ちやうぶ
 ちやうぶ ちやうぶ ちやうぶ ちやうぶ
 ちやうぶ ちやうぶ ちやうぶ ちやうぶ

雲あかりを 目の 今すの ちやうぶ ちやうぶ
 ちやうぶ ちやうぶ ちやうぶ ちやうぶ
 ちやうぶ ちやうぶ ちやうぶ ちやうぶ



五十六 五十六 五十六
 五十六 五十六 五十六
 五十六 五十六 五十六



五十六 五十六 五十六
 五十六 五十六 五十六
 五十六 五十六 五十六



白家七庄六



遠近と次の画ハ叔七の
物語一合せえんてし



朱檀

氏子中

鳥居文庫一四四



よしのこ
よしのこ
よしのこ
よしのこ

あんなに
あんなに
あんなに
あんなに

八幡宮祭



あんなに
あんなに
あんなに
あんなに

あんなに
あんなに
あんなに
あんなに

あんなに
あんなに
あんなに
あんなに

春水作 國貞画
 朝 鮮 牛 肉 丸
 大 金 二 朱
 中 金 一 朱
 小 銀 一 丸

春水作 國貞画
 朝 鮮 牛 肉 丸
 大 金 二 朱
 中 金 一 朱
 小 銀 一 丸

右の某... 左の某...
 下谷... 漆崎氏製
 あり... あり...

